

5/28(土)

調布・そぞろ歩き By 環境モニター

今回は深大寺北町あたりの造園屋さんや農家を訪ね、古木を見せていただくルート。10時に植物園正門前を出発、まずは4代も続く造園業の浅田さん宅で大きなユリノキとシマサルスベリ、ドラセナなどを見学しました。この近くでは明治の中頃から牛を飼っていた農家もあり、その当時の牛は畑一反と同じくらい高価で牛乳は薬のような飲まれ方だったとか。

深大寺図書館のあたりで休憩したあと伺った農家では、大きなケヤキやモチノキのほかに落葉溜めや蔵や納屋のあるようすも知ることができました。その後、市の天然記念物になっているカキ禅寺丸のある小牧さんから柿を売っていた頃の話などをうかがいました。最後の諏訪神社ではコブシやカヤを見たあと、思いもかけず氏子の鈴木さんにお茶とおにぎりをいただき、すてきな半日のそぞろ歩きを終りました。(k) 次回は10月末に実施予定です。



キャベツ畑の向こうに屋敷林のある農家を眺める。すてきな原風景。



ユリノキ(別名ハンテンボク チューリップツリーとも)

明治の初め頃新宿御苑に植えられたのが始まりと言われていますが現在は各地で街路樹などに使われている木です。チューリップのようなすてきな花ですが樹上高く、なかなか見ることができません。蜜の量が多く大変甘い花だそうです。浅田さん宅の木は幹周りが324cmもありました。



コブシ

青木さん宅のコブシは幹周りが240cmあり。春先は遠くからも白い花が良く見えることでしょう。



モチノキ

渡辺さん宅のモチノキは周囲が真っ暗になるほどの大木。幹周りが270cm。実が赤く色付き始めていた。



禅寺丸(柿)

小牧さん宅の木は市の天然記念物。幹周りが210cm 王禅寺から広まり、江戸時代から昭和の中頃までこの付近の農家の大事な現金収入になっていた。

参加者のひとこと

- ・子供の頃からなじんできた所ですが、自然や昔からの暮らしを意識してみると新鮮な発見が沢山ありました。これからは今日気付いたことを意識して見ようと思います。
- ・緑多い民家を訪ね、とても楽しく拝見できました。
- ・本や写真ではなく実際手にとって香りなどを感じ、とても良かった。ガイドさんがすばらしい。



シマサルスベリ

3~400年は経つと言われる古木。奄美や沖縄に自生するが現在は絶滅危惧種になっている。サルスベリより大木になり白い花を咲かせる。



入間・樹林の会

5/15(日)曇り空のもと、8人の参加者が民家との隣接地(三角地)の下草刈り作業で久しぶりに心地よい汗をかきました。

エゴノキの花がようやく咲いて



平出さんが事前に2日間、隣接地までの道づくりと下草/笹刈りをして下さっていたので作業も効率よく終えることができました。作業前に、後始末を考えたの笹刈りや笹を根元から剪定ばさみで刈り取るなどの注意があったので、気をつけて作業しました。また、樹林地入り口の伐採枝だめにゴミが投げ入れられているので柵をつくることにしました。



下草刈り後の三角地

地域センターに戻り、今年度の計画を検討。6月は伐採枝の後片付けと道づくり、今年度中に落ち葉だめづくりをすることにしています。(安部)

カニ山の会

5/21(土)晴れ。「ちょうふの自然だより」を見て初参加した方と環境モニターでお世話になっている小澤さんを含め13名が参加。キビタキのさえずりを聞きながら、今回は効率を考えて土壌調査とシュロの伐採をするAグループと植物相調査をするBグループに分かれて行動しました。Aグループはシュロ4本を伐採。伐採した木はとりあえず樹林内に。Bグループのキャンプ場南斜面の草本層調査結果は、草本類20種と数は少なかったが貴重種も発見。実生の樹木も含めると50種を確認しました。最後に世話人を決め次回以降の進め方について話し合いました。



帰り際、子どもたちが基地作りの下見に来ていたので、ブルーシートやイスなどの持込は市役所が撤去することを伝えました。(鍛冶)

次回:6/18。興味のある方はぜひご参加下さい。(P.4参照)

調布市環境モニター

5/14(土)晴れ。参加者12名。多摩川左岸上河原ワンドに集合し、ワンド上下流の高水敷(川の護岸の上にあたる部分)の植物を記録して歩いた。

- ・植物:60種。植物が生長して見分けがつかず種類が増えた。イネ科の花や小穂が多く見られた。
- ・昆虫(ヒゲナガガの仲間、ナガメ)
- ・鳥(セッカ声、ヒバリ声、コアジサシ、アマサギ)
- ・その他の生き物(ウシガエル声)
- ・上流の池(ワンド上流部の取り残されたもの)は、前は水が澄んでいたが、今回は茶色く濁っていた。伏流水が入らなくなったのか。ワンド最下流部の水際の水質をパックテストで測ってみた。水温20℃、COD値は8ppmくらい。午後は14:00に神代植物公園正門に集合し、5/28に実施する「調布・そぞろ歩き」の下見を行った。 次回植物調査:6/11(土)



よく咲いたノイバラ

ちょうふ DE 田んぼ日記 その22

「苗は今のところ元気です」

ここひと月は暑くなったり寒くなったり、また最近では夕立ともいえる強い雨と風に見舞われたりと、天候の変化が激しい日が続いています。それでも稲の苗はもう10センチ近く伸びました。

5/22(日) 堆肥を鋤き込みながら、あらおこし(耕して土の中に空気をいれる作業)を済ませました。

さて毎年の農作業は、天気によって左右されるだけで、やることに変わることはありませんので、今回はちょっと話題を変えます。援農をさせていただいている農家の畑の一角で、今年はキュウリとナスとトマトの栽培を始めました。勉強しながらおいしい野菜づくりに挑戦します。

また柏野小学校で総合的学習のお手伝いも始めました。参加いただける方はぜひご連絡ください。学習のテーマは「野川と柏野小学校周辺の自然環境」という漠然としたもので、まだ授業を始めて3回ほどですが、子どもたちはそれぞれ独自の興味と課題を持ち始めているようです。

最後に悲しいお知らせです。田んぼの学校の活動にご理解をいただき、援農にご協力いただいていた農家のご主人様が先日24日にお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りします。これからも田んぼと畑を続ける決意については次回のお話として、天国から田んぼの学校と調布の自然を見守ってください。(田んぼの学校:こんどう)

ひと

野川で遊ぶまちづくりの会 尾辻義和さん



ある真夏の暑い日、清冽な水に戯れる子どもたちの元気な声が野川の川面に響く…。こんな光景を夢見て私たちの会の活動は始まりました。最大の難関であった野川下水処理場の計画はやっとストップされたとのことで、ほっとしているところです。

夢は実現に向けてまっしぐらと行きたいところですが、20年以上野川に関わってきて見えてきたものは、原水である湧水が地下水の揚水規制や雨水浸透升の設置、川底への粘土張りなどさまざまな施策を講じているにもかかわらずむしろ減少しているという現実です。そんなに難しい話ではないと思います。ひとつは、降った雨を下水に流さず、相当量を地下に浸透させることを少なくとも多摩地域で実現する。二つ目は、玉川上水を基点としてかつて武蔵野の大地を潤していたいくつもの農業用水を環境用水として復活することです。せっかく降った雨(水)を何も利用せずに海に捨ててしまうのは「もったいない」ということです。

佐須の田んぼでの米づくりは、いつのまにか13回を数え、自分で食べるものを自ら作るということ、自然というものをどう捉えるかということにおいて、貴重な体験を私に与えてくれました。会が主催する田んぼの学校では、そのことを少しでも感じてもらえればと思っています。いろいろなことをやってきましたが、おそらく、私が新しいことに取り組む最後のものになるだろうと思われることが、「地域通貨」でしょう。「自然との共生」がライフスタイルとして受け入れられている社会は、「地域通貨」を使う社会といっても過言ではないと信じています。(52歳)



保全課の窓口

最近、環境保全課には、カラスに対する苦情・相談が多く寄せられます。それは今がカラスの子育ての時期だからですが、今回は近年都市部で大きな勢力を持ち、人間との

あつれきが問題視されているハシブトカラスについてちょっと調べてみました。

ハシブトカラスは英名では Jungle Crow、密林のカラスという意味で、本来は森林性です。それが都会にある森林に似た構造をうまく利用して、都市部に生息するようになったそうです。どういうことかということ、樹木にとまって食べ物を探すハシブトカラスにとっては、都市にある電柱、交通標識、人家のテレビアンテナなどは、樹木と同じとまり木の役目を果たします。樹木にとまって森の縁や地面に落ちている食べ物を見つけ、舞い降りて食べるというパターンが多かったハシブトカラスにとって、電柱にとまってその根元に積まれた生ごみに舞い降りて、食べられるものを探してついでにむという事は、本来の森の中での生活とそう変わらなかったようですね。(環境保全課:佐々木)

黄色いゴミ袋だとカラスには中身が見えないらしく近寄らないそうですが、さて。(編集子)

~ ちょうふ環境市民懇談会 ~

連絡会

5月16日(月) 18:30~たづくり301

参加者 出席者市民11名。行政4名

1. 勉強会 講師:小坂橋さん(緑と公園課課長)
テーマ:環境基本計画の策定に向けて調布市の環境分野の各計画とその関係性について聞く。

<内容のポイント>

調布市は3分の2が緑地である。公園緑地を2倍にする計画になっているが簡単ではない。市として緑地の買取を進めており国分寺崖線の間樹林地の所1000㎡、A邸地3000㎡(国の分含め6000㎡)を取得していくのでフィールドの管理に協力いただきたい。何らかの支援も考えたい。買取予算は6億5千万円要した。

<質問・意見交換>

Q.平成10年策定の緑の基本計画(作庭士など)は何処まで実現できたのか。総括し環境基本計画にいかすべきでは?

A. 中間総括については持ち帰って検討したい。

Q.懇談会の仕組みの中で公園課も一緒にできないか?

A. 作庭士認定制度等の事業を協働でできたらと思う。

2. 連絡会・話し合い

次回の連絡会で今後の連絡会の持ち方・運営・勉強会企画などについて話しあう。日程6/20(月)

運営委員会

5月9日(月) 18:30~たづくり301

出席者:市民7名。行政3名+多摩川センター2名

1. ワークショップ「環境管理計画の見直しに関する環境市民懇談会からの意見整理」

懇談会の活動記録から抽出した意見集の説明の後意見交換し<各課の連携/計画のチェック体制づくり/数値目標/見直しの期間を長く/多くの人が計画づくりに関わる工夫>等の意見が出された。

a. 懇談会から出す意見の範囲

主にこれまでの活動から見えてきた自然環境についての意見を出す。特に限定しない。

b. 懇談会からの提案書作成の今後の進め方

- ・事務方が過去の資料をもとに、懇談会関連の活動から出てきた意見を整理する。

- ・上記の整理した意見はメールで流し、懇談会関係者で確認する。

- ・今日出た意見はアンケートでの意見と一緒にまとめる。意見は6/10(金)までに環境保全課宛に送る。メールかFAX0424-81-7550へ。

2. 今期懇談会運営委員長に江刺益子さんを互選。

3. 次回以降、年間計画・中長期目標を考える。

次回WS 6/13(月) たづくり301・302

活動予定

環境モニター

・6/11(土) 9:30~12:30 多摩川鉄橋下流オギ原 植物調査(堰付近)
 ・7/2(土) 9:30~16:00 みんなの広場南土手ベンチ付近 植物調査(ワンド)・勉強会
 持ち物: 図鑑・ルーペ・双眼鏡等があればご持参ください。問合せは事前に環境保全課へ。

人間・樹林の会

6/19(日) 9:30~12:30 人間地域センター集合
 樹林の保全作業、伐採枝の処理など
 原則として毎月第3日曜に活動しています。
 関心のある方はぜひ環境保全課にお問合わせください。直接地域センターに来訪も可です。

かに山の会

日時: 6月18日(土) 9:30~12:30
 場所: 深大寺自然広場入り口集合(野草園前)
 内容: 東樹林地を見た後、佐須ふれいあいの家で今後の活動予定について話し合い
 6月は第3土曜ですが、原則第2土曜を活動日したいと思います。雑木林塾で学んだ人たちが集まって活動を始めたばかりですが、興味のある方はぜひご参加ください。連絡は環境保全課へ。

懇談会-運営委員会

6/13(月) 18:30~20:30 たづくり301・302 会議室 内容: ワークショップ「調布市環境管理計画の見直しに関する環境市民懇談会からの意見整理」ほか。
 話し合った内容は、「調布市環境管理計画」の見直しに向けた提案文書として活かされます。

懇談会-連絡会

6/20(月) 18:30~20:30
 たづくり6階 602 会議室
 市内で自然環境の保全活動しているグループ・個人の情報交換の場です。テーマを決めて勉強会等も行っていきます。初めての方もどうぞ。

調布の自然学習ボランティアグループ

・6/10(金) 12:30~16:00 調布小学校 4年生のサポート 野川全域踏査(第2回)
 ・6/21(火) 9:30~12:30 富士見台小学校 4年生のサポート 多摩川水質調査など
 今年度は調布小4年生(テーマ:野川)と富士見台小4年生(テーマ:多摩川)の総合学習のサポートを継続的に行っています。一緒にサポートして下さる方を随時募集しています。興味ある方は環境保全課へご連絡ください。(発信:山室)

布田崖線緑地を考える市民の会

6月26日(日) AM10:00~12:00
 毎月第4日曜に調布市が管理している凸凹山児童公園北側の崖線緑地(上石原2-49)を開放し、ワークショップ、イベント、整地作業などを行っています。どなたでも自由に参加できます。どうぞおいで下さい。ホームページ <http://blog.livedoor.jp/fgr/>
 連絡先: 緑と公園課 tel 0424-81-7082

イベント案内

調布市環境フェア

6月4日(土) 10:00~15:00 市役所前庭
 環境配慮団体紹介。チップ、メトロレンガの配布。
 市民・行政・企業が協働で環境への取り組みをPRします。左記の活動グループも参加します。

編集後記

桜が散って定点調査「野川の水生生物調査-春編」をやりました。といってもコイなんかじゃないの。川の底の砂や石の下に棲む小さな生物の種類をしらべると川の水質がわかるのです。佐須用水が流れ込むところからは「きれいな水」と判定できるカゲロウ類やブユが見つかりました。野川の流量や湧き水を増やすには、緑地の保全や創出、開発規制が一番ですが、雨水浸透も有効です。「自然だより」6月号をお届けします。ワードでの編集は私は初体験でしたがいかがでしょうか。助っ人募集中!(編集担当:江刺益子)



調布市ホームページにカラー版が掲載されています

ちょうふ環境市民懇談会は調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、話し合いなどの活動をしています。ぜひご参加ください。

発行: ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境保全課 tel 0424-81-7086
 E-mail: kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp